

K01

**1** 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二十日の公園には、思いがけないひとがいた。

中西くんが一人で野球の練習をしていた。コンクリートの壁にボールをぶつけて、跳ね返ってくるゴロを捕って、また投げて、また捕って……。とっつきと同じ服だった。家に帰らずに寄り道をして、途中でやめてしまった練習の続きをしているのだろう。

きみは迷いながら自転車を降りて、カゴからグローブを取り出した。困ったことになってしまったのが、ラッキーだったのか、よくわからない。ただ、明日、①クラスみんながいる誰か一言もなくさぼる言察を、いま、こゝでなら、言えまうな、言えまうかも。

中西くんはゴロのバウンドにグローブの動きを合わせこねて、ボールをはじいた。足下に転がったボールを拾い上げたとき、歩いてくるきみに気づいた。

やっば、だめ——目が合ったとたん、言葉が引込んだ。笑って声をかけるつもりだったのに、ムクとした顔になってしまった。中西くんのほうも、さっきのケンカのことを思い出したのが、なんだよ、どうぶつにきみを見ていた。

「こゝ使うなよ」

そんなこと、言うはずではなかったのに。

「オレが争紛してたんだから、どけよ」

リバーサルしていたわけではないのに、どうして、②「こゝ」いう言葉だけすらすらと出てくるのだろう。

中西くんは「なに言ってるんだよ」と笑ってとりあわず、またボールを壁にぶつけた。

-1-

K01

壁に角度をつけて投げたから、跳ね返ったボールは遠くまでいくゴロになって、それをガッシで追いかけてキャッチ——逃げられた、と思った。カッとした。「使うなって言ってるんだろ——」と声を張り上げると、中西くんもさすがに怒った顔でこゝちを振り向いた。

「公園って、べつに和泉のものじゃなだろ」

Tシャツが土で汚れている。その汚れの中には、さっき口の中を切ったときの血も混じっているだろう。「なに言ってるのか、ワケわからねーよ」と吐き捨てた中西くんは、またボールを壁にぶつける。今度はまったく。跳ね返ったボールもまったくゴロになったから、きみとの距離は縮まらない。

「練習、もう終わったの？」

ボールを投げて、捕って、を繰り返しながら、中西くんは頷いた。

きみも少し冷静になって、「まだやってると思っけえ……オレ、すぐに帰っちゃったから」と答えた。「でも、あいつら下手だから、練習してもムダだよ——」③「よけいな一言」だったな、と自分でも思う。

中西くんはボールを投げながら「え、きも言。ただ、オレ、ピッチャーやらないから」と言いつつ、転がってくるボールを捕りながら「和泉が先発しろよ」とつぶやいた。

「……オレ、もうショートだから、決めたから」

「先発すればいいじゃん、エースなんだ」

「やだよ」

エースはもうおまえなんだから、と心の中で付け加えた。

でも、中西くんも「じゃあ、べつにピッチャー来めろよ。オレはリリーフでいいから」と譲らない。

「キャプテン命令だから」

「オレ、べつにまだチームに入っているわけじゃないし……いはいさよ、和泉」

-2-

「いはってんの、そろちやん」

時だ。わかっている。中西くんは全然いはってなんかいない。

中西くんは「いいかげんにしろよ、オレもでっ、怒るぞ」とまごんだ声を出して、またボールを舞にらびけた。

跳ね返ってくるゴロを、きみはグアンツで中西くんの前に出て捕った。あっ、と声をあげた中西くんにかまわず、捕ったボールをすぐに舞にらび、また自分で捕った。

「なにするんだよ！返せよ、ボール！」

中西くんが駆けてくる。怒っている。「ぶげけんやよ！」——怒鳴りながらきみの前に出て捕らうとして、前にグアンツするきみと、ぶつかった。

(重松清「きみの女だろ」による。)

**問一** 「きみ」が公園でくっせん中西くんを見つけたとき、なにをしようとして近づきましたか。最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 中西くんが野球の練習を途中で抜けたので、注意しようと思った。
- 2 きみまでケンカをしていたので、その続きをしようと思った。
- 3 野球部のキャプテンとして、中西くんにはッチャーをするように命令しようと思った。
- 4 中西くんの方がにはッチャーにふさわしいことを認めて、仲直りをしようと思った。

**問二** ——線部①「クラスのみんががいる前では言えなくなるはずの言葉」と、——線部②「こういう言葉」はそれぞれどのような言葉ですか。最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 「言えなくなるはずの言葉」は、相手の実力を認める言葉で、「こういう言葉」は、自分の立場を護る主張する言葉。
- 2 「言えなくなるはずの言葉」は、自分のしたことを素直に謝る言葉で、「こういう言葉」は、相手を挑発する言葉。
- 3 「言えなくなるはずの言葉」と「こういう言葉」は同じ意味で、ケンカを続けるために相手を怒らせる言葉。
- 4 「言えなくなるはずの言葉」と「こういう言葉」は同じ意味で、仲直りをするために相手をなだめる言葉。

**問三** 「きみ」が、——線部③「よけいな一言」だと思ったのはなぜですか。最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 「きみ」と中西くんがほかの人よりも野球が得意なことと、二人の関係を修復することは直接関係がないから。
- 2 中西くんが野球の練習に話題をふったので、それならすぐにポジションのことを伝えるべきだったから。
- 3 中西くんの質問に答えるなら、練習を抜け出したことだけを説明すれば十分だから。
- 4 中西くんの質問に答える必要がないから。

**問四** この作品を読んで、**Aさん**と**Bさん**が話をしています。

**Aさん** 「公園での中西さんと『きみ』との実際の距離が二人の心の距離も表しているようで、面白いね」

**Bさん** 「わたしは、二人の心の距離は、ボールの動きで表されていると思うよ。会話に合わせてボールの動きも変わっていくからね。」

この二人の意見のうち、あなたが物語の表現方法として共感できるのはどちらの意見ですか。また、あなたが共感した理由を、本文を引用しながら説明しなさい。

2

次の文章を読んで、図を見ながらあとの問いに答えなさい。

『おはよう』と「こんばんは」の比較 ～不安定な「おはよう」～

図1から図3まで同じあいさつのことばでありながら、「おはようございます」と「こんばんは」では、異なる傾向を示している。

「こんばんは」の使用は、「日の入り」という自然現象の発生時刻に左右される、と考えてよいだろう。「暗くなった」という判断は人によってさほど違いはないから、同じ地域内での個人差は現れにくい。また、日の入りの時刻は地域によって違うので、地域間の差ははっきりと現れる。なお、ここでは12月上旬という時期を設定して調査をおこなったが、違う時期(季節)に実施すれば、「こんばんは」を使い始めることができる時刻については、その時期の日の入りの時刻を反映した結果が得られるだろう。「こんばんは」を使う時間帯は季節によって異なる、と予想できる。

それに対して「おはようございます」の使用は、「日の出」という自然現象とはおそろくあまり関係がない。「朝」というのは何時ごろまでだとするか、という「個人の考え方」に強く影響され、それは「日の出から〇時間後まで」というとらえ方はさかれていない。その結果、さまざまに個人差が大きく現れるのに対して、地域差は整然とした形では現れないのである。ここから、時期(季節)を変えて調査をおこなっても、結果「おはようございます」の使用タイムリミットはおそろくそれほど変わらない、ということが予想できる。「おはようございます」を使う時間帯は季節によってあまり差がない、と考えられるだろう。

「おはようございます」が時間を問わず用いられるあいさつことばに変化することばの可能性については、「いつでも使える」の回答者数からも考えることができる。

この結果からも、「日の入りによって暗くなる」という自然現象によって規定されている「こんばんは」の用法は今後も安定しているだろうと考えられるのに対して、①「おはようございます」の用法は不安定になってゆく可能性がある、ということが予想できる。

(図1文：堀田雄大「『おはよう』はよるしないか ～平成13年度(後半)ことばのゆれ全国調査から(1)～」による。)

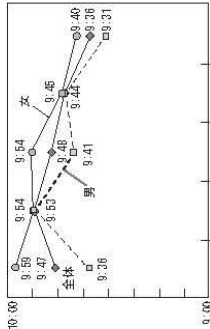


図1 何時まで「おはようございます」(年代表) 12月上旬の調査



図2 何時から「こんばんは」(地域差) 12月上旬の調査

「おはようございます」いつでも使える	全体: 2% (1,272人中27人)
20代: 7% (135人中9人)	
「こんばんは」いつでも使える	全体: 0% (1,272人中0人)
20代: 0% (135人中0人)	

図3 いつでも使えるか 12月上旬の調査

**問一** 著者の主張の中で、図1から導き出せることは何ですか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

- 1 「おはようございます」と「こんにちは」は使い方が異なること。
- 2 「こんにちは」の使用は日の入りの時間に左右されること。
- 3 「おはようございます」の使用は日の出の時間に関係しないこと。
- 4 「おはようございます」は使われている時間が一定ではないこと。

**問二** — 線部①『「おはようございます」の用法は不安定になってゆく可能性があるとありますが、その考えを裏付ける記述として、本文には、図の中に根拠が示されている主張と、著者の推測による意見が書かれています。次の中から図の中に根拠が示されている主張として適切なものを一つ選びなさい。

- 1 「おはようございます」の使用は全体と比べて若人の方がいつでも使えろと思っている割合が高いこと。
- 2 「おはようございます」の使用は、自然現象とはあまり関係ないこと。
- 3 「おはようございます」の使用は、個人差によるところが大きいこと。
- 4 「おはようございます」の使用は、地域差による違いがないこと。

本文を読んだAさんとBさんが、次のような会話をしています。2人の会話を読んで、あとの問いに答えなさい。

**Aさん** 「おはよう」や「こんにちは」は普段からよく使うあいさつだけど、使う時間についてはこんな違いがあったんだね。」

**Bさん** 「「こんにちは」には、日の入りというわかりやすい基準があるからね。でも、「おはよう」をいつまで使うかについても、時間以外に何か基準があるんじゃないのかな。」

**Aさん** 「そう言えば、江戸時代は朝ごはんを食べるまでが『おはよう』で、食べた後は『こんにちは』だったって聞いたことがあるよ。」

**Bさん** 「ほんとに？ そうすると、『おはよう』は昔から人によって使う時間が違って当たり前だったということになるね。」

**問三** AさんとBさんはことばの使い方についてある共通する考え方を持っていますが、それはどのような考え方ですか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

- 1 あいさつのことばは、同じような生活をしている人同士であれば同じ時間に使う。
- 2 ことばの使い方について誰にでも分かるような基準があれば、使い方は統一される。
- 3 ことばの使い方には、もともと個人差がある。
- 4 人によって使い方が異なることばがあれば、同じように使われることばもある。

**問題** AさんとBさんは「おはよう」の使われ方の違いについて、調査とは考え方が異なります。調査の考え方は

Aさん、Bさんの考え方がどのように異なるのか、説明しなさい。